

(7) 今までの学校関係者評価は、十分に機能していませんでした。

- ① 学校の情報提供が不十分（学校説明、参観等の機会が不足）
- ② 評価機会、時間帯の不足（評価する情報量が不足）
- ③ 評価項目、尺度が不明確（事前周知や評価項目の検討がなかった）
- ④ 評価者の人的な幅が狭い（学校評議員に限られていた）
- ⑤ 一般教職員との隔離（一部の教職員参加のため、結果の反映が不足）
- ⑥ 学校改善（教職員の参画意識が十分でなく、評価が改善に繋がらない）

以上のように、学校の説明責任が十分果たされず、評価自体について明確な項目や基準がなかったために、学校が求める外部評価が表層的になりがちで、十分に学校改善に結びついていなかった。

嬉野市の「学校関係者評価」の基本的なとらえ方

学校自己評価

学校関係者評価

納得性

補完的

評価の客観性

学校改善



子どもたちにとって楽しい学校

